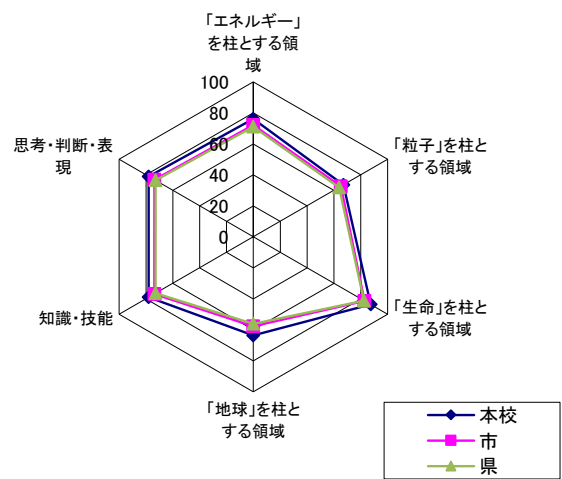


宇都宮市立桜小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	76.1	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	67.1	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	87.4	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	63.6	57.7	56.2
観点	知識・技能	78.0	73.8	72.8
	思考・判断・表現	78.0	73.7	72.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市や県の平均より高い。 ○「光と音の性質」、「風とゴムの働き」、「電気の通り道」については、よく理解しており、どの設問も正答率が県全体平均を上回っている。 ●「磁石の性質」では、磁石の性質について問う設問において、県全体平均より正答率が低い。同じ極同士は退け合う性質があることの理解が不十分だった。	・「光の性質」等、各自で実験や記録をし、結果を適切にまとめる学習形式を継続していく。 ・「磁石の性質」については、他の単元と比較すると理解度がやや低いので、補充問題に取り組みさせて知識の定着を図る。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市や県の平均より高い。 ○形を変えて測っても重さは変わらないかを問う問題の正答率は、県全体平均を1.9ポイント上回っている。 ○同じ体積でもものの種類によって重さが違うことについて表と関連付けて考えることができており、県全体平均を4.4ポイント上回っている。	・児童の関心が高い課題であるので、引き続き教師の演示を見せるなどの工夫を行っていく。 ・グループで調べた内容を、クラス全体での結果のまとめとするなど、まとめの仕方を工夫し、知識としてより深く定着させるような指導を継続していく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市や県の平均より高い。 ○「身の回りの生き物と環境との関わり」、「植物の成長と体のづくり」、「昆虫の成長と体のづくり」については、よく理解しており、県全体平均をおおむね上回っていた。 ○特に、昆虫の体のづくりについてよく理解しており、県全体平均を9.6ポイント上回っていた。	・今後も体験活動の時間を確保することや、実験結果について考察し、まとめ、振り返る活動をしっかり行うことを重視した取り組みを継続していく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市や県の平均より高い。 ○太陽と影の動きについてよく理解しており、県全体平均を上回っていた。 ○特に、太陽が動く方位を問う設問については、県全体平均を13.0ポイント上回っていた。資料や問題文を読み取り、影の動きと関連付けて考えることができていた。	・今後も実験などの体験的活動を通し、考えさせる場の設定を行うことを継続していく。